

## カシスの昆虫病原性線虫剤による スグリコスカシバ防除技術

近年、カシスでは幼虫が枝幹部を加害するスグリコスカシバの発生が問題です。これまで本種の防除に使用できる農薬はなかったのですが、平成 26 年に昆虫病原性線虫剤（スタイナーネマカーポカプサエ剤）が、ふさすぐりのスグリコスカシバにも適用拡大されました。そこで、本剤を秋に散布することでスグリコスカシバを防除できることを明らかにしました。

### ☆ 技術の概要

1. 薬剤の散布時期は線虫の活動温度（15-30℃ およびスグリコスカシバ幼虫の虫糞排出（図 1）、果実の有無を考慮すると、9月中旬～下旬が適期です。
2. 昆虫病原性線虫剤（バイオセーフ）1包を 25L の水で希釈し、成木当たり 1-5L を枝幹部全体にかかるように立木全面散布することで、十分な防除効果が認められます。また、薬害も見られません（表 1）。



図 1. カシスの幹で虫糞の排出が認められる被害部（平成 25 年 9 月 5 日撮影）

表 1 カシスのスグリコスカシバに対するバイオセーフの防除効果（平成 25 年、青森県七戸町の試験）

区	希釈濃度	1 株当たり			死亡率 (%)	薬害
		調査主軸枝数	寄生幼虫数	死亡幼虫数		
バイオセーフ散布	2,500 万頭/25L	10	9.6	6	62.5	なし
無処理	—	10	5.2	0.4	7.7	—

1. 供試樹は 23 年生の「青森在来」で 1 区 5 樹（83.3 樹/10a）とした。
2. 9 月 23 日に 1 樹当たり 5L を、背負式動力噴霧器で枝幹部全体にかかるよう散布した。
3. 調査は 10 月 2 日（散布 19 日後）に各区 5 樹、1 樹あたり 10 本の主軸枝の幼虫数と生死を調査した。

### ☆ 活用面での留意点

1. 本剤は線虫の活性を保つため、使用する直前まで冷暗所（約 5℃）で保存し（有効年限：4 か月）、調整は直射日光の当たらない場所で行い、調整後は速やかに散布します。
2. 乾燥条件下では線虫の活動が低下しますから、散布は晴天時には行わず、小雨時あるいは枝幹部が十分濡れている時に行うことも活性を保つために重要です。
3. 詳細については、地方独立行政法人青森県産業技術センターりんご研究所 南果樹部（電話：0178-62-4111、電子メール:nou\_ringokennan@aomori-itc.or.jp）にお問い合わせください。

（果樹研究所 企画管理部 研究調整役 井原史雄）